

「将来につながる一週間」

愛知県立岡崎商業高等学校国際ビジネス科3年 渋谷 萌友

初めて行った北欧のスウェーデン。初めて体験したホームステイで過ごす1週間は長くもあり、短くも感じました。その1週間でたくさんの人と出会い、お世話になりました。ダニエルとエリック、ガイドでずっと付き添っていただいたケビンさん、校長先生のトーマス先生にイングマリー先生、他にも多くの方と関わることが出来ました。そこで私はとても貴重な体験をたくさんさせていただきました。実際に行って自分の目で見て、話を聞いて感じる事がどんなに大切かを学びました。また、ウッデバラ市と岡崎市の架け橋に関われたことはとても光栄なことで嬉しく思いました。スウェーデンに行く前の私は、今思えばとても視野が狭かったと思います。ですが、今回の事業へ参加したことで価値観が大きく変わったように感じます。

学校で募集が始まってすぐは自分に自信がなく、なかなか応募することが決断できませんでした。しかし、高校3年生最後の夏に何かにはチャレンジをしたいと考えていて、クラスでも何人か応募していることを聞き、私もしてみようと思い切ってしてみました。面接での選考では、緊張は不思議と全然感じず、行くことを考えると楽しくて、真っ直ぐな気持ちを伝えることができたのでやりきって終わることができたと感じました。選ばれたときは本当に信じられなくて、友達からの「おめでとう」や「頑張って」という応援の言葉をかけてもらえたことにも喜んだあの気持ちは思い出すと今でも嬉しい気持ちで満たされます。選ばれてからスウェーデンに行くまでの日はあっという間に感じました。スウェーデンまでの期間はより英語に慣れるため、今までより洋楽を聴いたり、洋画を観たりして英語を身近に置くように心掛けて過ごしました。他にも、以前より外国の方と会話をする機会を増やし、教わるようにして英語への理解を深め、準備をしてきました。スウェーデンに向かう当日、街を見てやっと来たんだという実感が湧きました。向こうに着いてからは始めてみる建物、景色、目にするもの全てが新鮮でした。



ウッデバラ駅にて

1週間スウェーデンで過ごした中でも1番印象に残り、自分が変わったと思うことはやはり学校訪問でした。校内を歩いていて目が合えば、笑顔で手を振ってくれることに温かさを感じました。設備が充実していることから、福利厚生の実質さが見えました。また、生徒と先生が対等に話すことも印象に残りました。

海外と日本では教育方法も全然違うことは事前の調べでわかっていたつもりでしたが、驚かされることばかりでした。小学校の頃には他の国の言語を習い、中学生からは学科選択が始まる事を聞きました。多くの生徒はスウェーデン語に限らずほかの言語も私たちと同じ年で話せると聞いたので、小さい頃から言語を習うことは大人になってとても役に立つと今本当に強く感じることで、とても羨ましく思いました。他にも、授業内容は基礎を習い、それを使って、次は自分自身で考えて物を作るというものでした。習う目的や意味が明確になっていることが日本との違いを感じました。そして、自分で起業する生徒が多くいることもそのような方針の授業内容が影響していると私は思いました。



ウッデバラ高校にて
授業を体験している様子

勉強面だけではなく、生活面でも違いを感じました。私服やメイク、髪色など好きなようにして自分を表現している印象があり、校則のことが気になりました。質問の時間をもらうことがあったので聞いてみると、クラス内で先生と話し合いでみんなが決めたことはあっても、学校全体では何も決まったことは無いという答えが返ってきました。その答えに驚きが隠せませんでした。



高校生でありながら Google で働いている青年

それは日本の学校ではほぼありえない事だったからです。自分を表現することはとてもいいと思いました。ですが、制服に対しての意見を聞くと、生徒と先生とは気にする視点が違い、印象的でした。先生は、生徒の持ち物で差が生まれることを気にしている様子でした。

先生方は生徒を第一に考えて生徒が生活しやすい環境を作っていました。それは私たちが予想もしないような細かいことまで考えられていました。特別室では机の仕切りの色や素材にまでこだわりを見せていました。また、クラスで定期的に生徒と先生でミーティングを開き、話し合いの時間が設けられていることも教えてもらいました。

私たちがクラスを回りながら発表をさせて頂いたあとの質問を受ける時間があったのですが、どのクラスも日本に興味を示し、たくさんの質問が来たことはとても嬉しかったです。それと同時に、日本では発表を聞いても遠慮がちで反応が薄いことを特

に強く感じる場面でもありました。

今回のホームステイで文化の違いもたくさん見つけ、とても楽しみながら体験しました。知らないことを知ること、新しいことに挑戦することがどれほど充実しているかを再認識しました。体験したことはこれから私の強みになり、ほかの事へのきっかけとなります。また、他の国も見てみたい、文化を知りたいと思うようになりました。そして、将来に繋がるものになったと思います。いつかまたスウェーデンに行き、今回お世話になった方々と再会するために努力していきたいと思います。

多くのことが学べる充実したこの事業を経験する人が増え、そしてウッデバラ市と岡崎市の架け橋となる人がたくさん出て欲しいと強く思いました。そして、これからも姉妹都市が長く続くことを願っています。



日本の歌を披露している様子